

3 IT関連支出（インターネット接続料及びケーブルテレビ受信料）の動向

高齢者世帯の伸びが大きいIT関連支出

平成14年1月から「インターネット接続料」及び「ケーブルテレビ受信料」の項目を新設した。

新設収支項目における1世帯当たりの年間の支出金額をみると、インターネット接続料は平成14年の7,893円から15年は10,513円となった。また、ケーブルテレビ受信料は平成14年の5,798円から15年は6,718円となっており、どちらも支出金額は増加している。

さらに、これらについて平成15年の年間の支出金額及び対前年名目増減率を世帯主の年齢階級別にみることとする。

・インターネット接続料

平成14年と比べると、支出金額はすべての年齢階級で増加しているものの世代間格差は大きく、15年の支出金額が最も多いのは40～49歳の世帯で15,145円、最も少ないのは70歳以上の世帯で3,479円となっており約4.4倍の差がある。

また対前年名目増減率は、70歳以上の世帯が最も大きく増加しており、65.3%の増加となっている。

・ケーブルテレビ受信料

支出金額はインターネット接続料と同様にすべての年齢階級で増加している。また、50～59歳の世帯の支出金額が7,710円と最も多く、次に40～49歳の世帯の7,628円となっている。なお、最も少ないのは30歳未満の世帯の3,241円となっている。

また対前年名目増減率をみると、こちらもインターネット接続料と同様に70歳以上の世帯が最も高く、33.7%の増加と他の年齢階級と比べてもその増加は著しい（図43）。

図 43 世帯主の年齢階級別インターネット接続料とケーブルテレビ受信料の支出金額及び対前年名目増減率

